〈第27回〉

植木カットデザイナーの

昼飯

題字：クイック・ガーデニング 代表取締役　渡辺則夫

仕事中の貴重なリラックスタイムであり、人となりが出やすいという食事時間。お客様の前とは少し違った、「昼飯」どきの植木カットデザイナーたちをご紹介します。

まさかの、中身が空っぽだったアルミカップ（笑）

たくさんのおかずが食欲をそそります

植木カットデザイナー

長束（ながつか） 光洋（みつひろ）

出身地	愛知県
対応エリア	愛知県
趣味	歴史（日本史、戦国時代以降） 飲み歩き
好きな植物	芝生。見ていると癒されるから

愛知のカットデザイナーとキャンプ（右端が長束）

人との縁が紡いだ道

愛知県を担当している長束（ながつか）カットデザイナーの昼飯は、奥様手づくりのお弁当。おかずがぎっしり詰まったお弁当は愛情たっぷりです。

日々のお弁当づくりのなかでは、こんなハプニングもありました。ある日お弁当の蓋（ふた）を開けてみると、クシャっとしたアルミカップが真ん中に。開いてみると、なんと空っぽ…。奥様がうっかりおかずを入れ忘れてしまったそうです。すぐさま奥様に写真を送り、二人で大笑い。そのお弁当を「ご愛嬌弁当」と呼び、いまでも家族の定番ネタになっています。

長女が受験生のため、近ごろの休日は次女と電車で出かけることが多いそう。気の向くまま商店街や公園に行き、親子で過ごす時間を大切にしています。

かつて、名古屋市内で喫茶店を経営していた長束。幼いころから両親に連れられ、喫茶店に通っていました。その雰囲気が好きになり、いつしか自分の店を持ちたいと思うように。内装の設計からメニューや看板、棚まですべて自身で手がけました。

常連さんも増え、手狭になってきたころに、店舗が老朽化。移転先を探しましたが、よい場所がなかなか見つかりません。そこで、初めて喫茶店以外の道を考えました。すぐに思い浮かんだのが、すでにクイック・ガーデニングで活躍していた高校時代の友人、近藤和敏カットデザイナーのこと。じつは長束の祖父は植木職人だったそう。縁を感じ、すぐにこの世界に飛び込む決心がついたのです。愛着のある店を閉め、当社で研修を受けました。

愛知県のカットデザイナーはお互いに協力し合う間柄で、仕事の相談をすることもあります。普段ひとりで行う仕事だからこそ、横の繋がりが貴重で助けられているのだそう。

喫茶店では仕事柄、たくさんのお客様と接してきました。親しみやすい雰囲気の長束は、お客様のイメージを引き出すことが得意。

「見栄えを味わうのも庭木の楽しみ。ご納得いただけるよう、丁寧に剪定しています」

数々の縁が繋がり、カットデザイナーになった長束。持って生まれた手先の器用さとセンスを生かし、技術を磨きます。お客様との会話を大切に、これからもお庭を笑顔にしてまいります。

喫茶店外観
入口とテラス席には緑があふれていました

壁の世界地図とメニュー板は自作です

店内にはいつもジャズが流れていました

休日は次女と公園へ。
四つ葉のクローバーを発見！

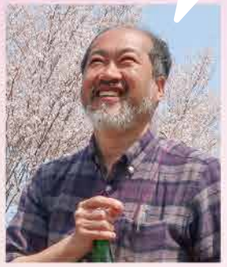
サクラ便り

満開のサクラを見ると懐かしさが頭をよぎりませんか？日本に住んでいると、人生の節目に咲くサクラが心象風景の中に登場するのは、自然なことなのかもしれません。

そんなサクラを20年以上研究している勝木俊雄さんにお話しを伺いました。

人の植えたサクラのみならず、自生するサクラの魅力にも、目を向け、守っていきたいものです

今回お話をうかがいました



（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 産官学民連携推進調整監 農学博士

勝木（かつき） 俊雄（としお）さん

1967年、福岡県生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科修了。

著書:『桜』（岩波書店）、『桜の科学』（SBクリエイティブ）など

お花見桜の‘染井吉野’

‘染井吉野’

最も名が知られている‘染井吉野’ですが、エドヒガンとオオシマザクラ2種の雑種であり、すべて接ぎ木（つぎき）でつくった同じ遺伝子をもつクローンです。江戸時代に染井村（現在の東京都豊島区駒込）から広まり、その名が付けられました。奈良時代からのお花見といえば梅や桃でしたが、その後サクラへと変わっていきました。当時愛でられていたのはヤマザクラです。ヤマザクラはクローンではなく1本1本が違う個体。ですから個体ごとに開花時期はさまざまです。サクラといえば早春に一斉に咲くイメージが強いですが、それは‘染井吉野’がすべておなじ遺伝子のため、開花時期が揃うからなのです。‘染井吉野’が広まるにつれて、一斉に咲く桜の樹の下、賑やかな宴会をおこなうお花見の風習が根付いていきました。

※クローン：一つの細胞または個体から、受精の過程を経ず、細胞分裂を繰り返すことによって生ずる細胞群または個体。全く同一の遺伝子構成をもつ。

日本に自生するサクラの種（しゅ）

サクラは海外でも愛されている花で、日本固有のものではありません。日本に自生するサクラは９種。2017年に勝木さんが発見した新種「クマノザクラ」をくわえて10種となりました。

寿命が長く、日本の三大桜と謳われる古木の種。

伊豆七島、伊豆半島で見られる。丈夫で成長が早い。

花期が遅い。ヤマザクラと似ているが、新葉が赤ではなく緑色。

古くから歌にも詠まれる。山地に広く自生。花と同時に赤い新葉が出る。

クマノザクラ（熊野桜）

紀伊半島南部（和歌山、奈良、三重の3県）に分布するサクラの新種。カスミザクラやヤマザクラと間違われてきましたが、それらに比べて葉が細く小さい。一つの冬芽から2つしか咲かない。他の種より早く咲く。

オオヤマザクラ（大山桜）

ヤマザクラより花や葉が大きい。寒さに強く北海道の山地に見られる。

ミヤマザクラ（深山桜）

小さな花がまとまって咲き、ガクが反り返って花を咲かせる。

タカネザクラ（高嶺桜）

日本に分布するサクラでは最も標高の高い場所に育つ。

マメザクラ（豆桜）

他と比べて樹高が低く、花が下向きに咲く。

チョウジザクラ（丁子桜）

花が逆向きの丁字形で、香辛料の丁字（クローヴ）に似るため命名された。※ジンチョウゲ科フジモドキの別名と同じだが全く別の種。

「さくらんぼ」はサクラ？

サクラの実はさくらんぼ。町で見かけるサクラにもさくらんぼが実りますが、その実は苦くて食べられません。食用のさくらんぼの多くは、セイヨウミザクラに代表される海外のサクラの実。日本のサクラで食用にされてきたのは花や葉です。オオシマザクラは芽ぶく力が強く、毎年葉を収穫できるので桜葉の塩漬けに使われてきました。あんぱんや桜湯に使われる塩漬けは、オオシマザクラから生まれた栽培品種である‘関山（かんざん）’の蕾（つぼみ）。赤みが強く花色が濃い八重桜です。花びらにボリュームがあるので塩漬けに適しています。

さくらんぼ

セイヨウミザクラ（西洋実桜）

桜餅に使われるオオシマザクラの桜葉

あんぱんに使われる桜の塩漬け

祝いの席で振る舞われる「桜湯」

‘関山’の蕾は塩漬けに

サクラ切る馬鹿 梅切らぬ馬鹿

この言葉のせいか、「桜は切ってはいけない」と誤解されています。本来はサクラも梅もそれなりの管理が必要。お庭の桜は、公園のように大きくのびのび育てるわけにはいきません。枝が太くなる前のこまめな剪定が、桜を菌から守ることになります。また、お庭の桜は年に一度肥料を施すのがおすすめ。桜は落葉したころに剪定をしましょう。

樹形を抑える剪定なら

桜 11月～12月上旬

葉を落とした休眠期ならダメージを抑えられる

梅 11月～1月

古い枝には実や花が付かない。春前の剪定で健康な枝だけに

サクラ保存林にGO!

多摩森林科学園

東京都八王子市廿里町（とどりまち）1833-81

アクセス／JR高尾駅北口から徒歩10分 ＊駐車場無し

入園料／大人200円　子供無料（高校生まで）
（4月のみ大人300円　子供100円）

開園時間／9：30（4月は9：00）

閉園時間／16：00（入園は15：30まで）

休園日／月曜日（祝日又は振替休日の場合は次の日）
3月1日～5月6日の期間は無休

多摩森林科学園 森の科学館

いちばんの見どころは、国内最大の栽培品種コレクションを誇る「サクラ保存林」。江戸時代から伝わる栽培品種や国の天然記念物に指定されたサクラのクローンなど、日本全国のサクラ約1,800本が植えられ、貴重なサクラの遺伝子を保存しています。

種類によって開花時期はさまざまで、2月下旬から4月下旬にかけて順次見ごろに。主なサクラの開花情報は公式サイトで確認できます。入口から保存林まで徒歩8分ほど。ハイキングがてらにお出かけしてみてはいかがでしょうか？

多摩森林科学園
サクラ開花情報

サクラ保存林

画像提供：（国研）森林研究・整備機構　森林総合研究所多摩森林科学園